

大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究

研究代表者 小林茂俊 帝京大学医学部小児科 教授

研究要旨：本研究は、災害時のアレルギー対応についての多面的調査によって、行政、患者・養育者、災害医療従事者のアンメットニーズを抽出し、解決策となるツールを作成、システムを構築することを目的とする。令和2年度は、行政、患者、災害医療従事者から見た問題点を調査する行政班、患者・養育者班、災害医療従事者班、関連団体の連携システムを構築する関連学会連携構築班、ツールを作成するツール作成班を構成し、研究を開始した。行政班の自治体に対するアンケート調査では、多くの自治体で対応が始まっているが、職員の基礎知識、情報共有、情報公開など細部は不十分であること、職員向けの情報提供への要望があることが判明した。患者・養育者班のアンケート調査では、自助の取り組みは進んでいるが不十分であること、情報不足に対する懸念が強いことが判明した。希望する情報は多岐にわたり、幅広い資料作成が必要であると思われた。災害医療従事者班は、職種により対象や時期が異なるため、文献・資料の検索、聞き取り調査を行ったうえで、職種ごと（災害医療コーディネータ、薬剤師、栄養士）のアンケートを作成した。関連学会連携構築班は、各関連学会・団体の災害時活動について聞き取り調査を行い、対応は個別に行われているが、まとまりのある活動はされてこなかったことが明らかとなり、統一された窓口を日本アレルギー学会に提案することになった。ツール作成班は、基礎データとして、関連学会、自治体の災害時の疾患対応に関する情報の公開状況について調査したが、一般住民向けの情報とそのアクセシビリティは十分ではないと考えられた。今後は各分担班の調査データを詳細に解析し、細かなニーズを抽出し、提供すべき情報の選別と提供方法の検討を行う。最終的には行政、患者・養育者、災害医療従事者向けに point to point で対応できるツールの作成を行い、関連学会・団体の連携を強化し、窓口の一本化を図る。

研究分担者

藤澤隆夫	独立行政法人国立病院機構三重病院 院長	(行政班)
足立雄一	富山大学学術研究部医学系小児科学 教授	(関連学会連携構築班)
三浦克志	宮城県立こども病院アレルギー科 科長	(行政班)
伊藤浩明	あいち小児保健医療総合センター センター長	(患者・養育者班)
池田政憲	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 特命教授	(関連学会連携構築班)
今野哲	北海道大学大学院医学研究科呼吸器内科 教授	(関連学会連携構築班)
福永興老	慶應義塾大学医学部内科学（呼吸器） 教授	(関連学会連携構築班)
吉田誠	国立病院機構福岡病院呼吸器内科 院長	(関連学会連携構築班)
藤枝重治	福井大学医学部耳鼻咽喉科 教授	(関連学会連携構築班)

矢上晶子	藤田医科大学医学部総合アレルギー科 教授・総合アレルギー副センター長	(関連学会連携構築班)
福島敦樹	ツカザキ病院眼科 眼科部長	(関連学会連携構築班)
成田雅美	杏林大学医学部小児科 教授	(関連学会連携構築班)
本村知華子	国立病院機構福岡病院小児科 小児科医長	(災害医療従事者班)
岬美穂	独立行政法人国立病院機構本部 DMAT 事務局 医師	(災害医療従事者班)
二村昌樹	国立病院機構名古屋医療センター小児科 医長	(ツール作成班)
正木克宜	慶応義塾大学医学部内科学(呼吸器) 助教	(患者・養育者班、ツール作成班)

A. 研究目的

近年、我が国では台風、豪雨、地震等による災害が頻発し社会問題となっている。気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー等のアレルギー患者は国民の2人に1人以上と多く、災害時にはアレルギー患者に対して環境対策や食品の配慮等が必要であり、「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」(平成25年8月内閣府)ではアレルギー患者は「要配慮者」と明記されている。また、アレルギー疾患対策基本法に則り、平成29年3月に厚生労働省により策定された「アレルギー疾患対策基本指針」には、アレルギー疾患対策の推進に関する重要事項として、「災害時の対応」が明記されている。災害時のアレルギー患者への対応は喫緊の課題であるが、まだ有効に行われているとはいえない状況である。

一般的に、災害時には、自助・公助・共助の3本柱が必要であるが、アレルギー患者への対応においてはさまざまな問題点が存在する。アレルギー対応食品の備蓄、アレルギー疾患に対応するための薬剤や資材の準備など、公助としての行政のアレルギー対応は以前より大きく進んでいるものの、実際に何が行われているか、実情に合っているか、災害時の患者への対応として有効か、情報が公開されアクセスしやすいかなど、現状に対する詳細な調査・評価は行われていない。患者・養育者の自助促進のために、たとえば日本小児アレルギー学会による「大規模災害対策におけるアレルギー用食品の備蓄に関する提案」や、「災害時におけるこどものアレルギー疾患対応パンフレッ

ト」作成など各種活動が行われているが、実際に患者・養育者がどの程度食品・薬剤等を備蓄しているか、避難所等の情報を持っているか、疾患悪化時に対する準備を行っているか等は把握されていない。災害医療従事者は被災者の医療に関して重要な役割を担っているが、アレルギー患者に対する対応の現状についての体系的調査はなされていない。また、有効な対策を考案するためには、現状を把握するだけでは不十分である。実際に現場にいる行政、患者・養育者、災害医療従事者などが、アレルギー対応に関して平時や災害時に困っていること・要望すること＝アンメットニーズを正確に把握し、point to pointの問題解決策を提供する必要がある。

もうひとつの問題は、災害時、平時ともに、行政、患者・養育者、災害医療従事者がアレルギー疾患に対してアドバイスを受ける窓口が明確でないことである。アレルギー疾患対応には、医療だけでなく、避難所の状況把握、適切な情報提供、アレルギー対応食品の輸送、平時よりの準備など多角的なアプローチが必要である。混乱を回避し、迅速な対応を促進し、限られたリソースを適正に配分するためには、日本アレルギー学会をはじめとした関連学会、日本栄養士会などの関連団体が連携を構築したうえで、そのまとめ役、あるいは連絡役となるような統一された窓口を設置することが必要であると考えられる。

本研究班では、患者・養育者(患者会)、災害医療従事者(医師、看護師、薬剤師)、アレルギー疾患関連学会(日本アレルギー学会・日本小児アレ

ルギー学会・日本小児臨床アレルギー学会)、日本アレルギー協会、日本栄養士会、保健所など行政と連携した研究班を構築し、大規模災害時の対策の現状とアンメットニーズを多面的に検討し、問題解決に向けたツール作成、相談窓口などのシステム提案を行う。今回は、各方面に重大な影響を及ぼしている COVID-19 等感染症蔓延下の災害時の問題点も抽出し、対応についても検討する。

B. 研究方法

行政から見た問題点を把握する行政班、患者視点からの調査を行う患者・養育者班、災害医療従事者の調査を行う災害医療従事者班、アレルギー関連学会や栄養士会などの連携構築を行い、窓口一本化を目標とする関連学会連携構築班、問題を解決するアプリやパンフレットなどを作成するツール作成班を構築し、研究を行った。多面的な調査を行うため、アレルギーを診療する各科医師、患者会、薬剤師、看護師、DMAT など災害医療従事者、保健士、保健所など行政担当者、災害の専門家などの多職種のメンバーを構成員とした。

以下、研究方法の概要を各担当班別に記載する。詳細については分担研究報告を参照していただきたい。

1. 行政班：Ⅰ、Ⅱの二つの群に対して書面によるアンケートを行った。Ⅰは内閣府ホームページの災害救助法の適用状況(1)に記載のある 2015 年 1 月～2020 年 7 月に災害救助法が適用された全市町村を対象とした。主な内容は、アレルギー疾患対応の経験、災害計画の課題等である(資料 1)。Ⅱは全国自治体(市町村及び特別区)1741 から無作為に 25%抽出した 435 自治体を対象とした。主な内容は、アレルギー疾患に対しての備えに関する質問である(資料 2)。回答期間は 2021 年 1 月 8 日～2 月 12 日とした。

2. 患者・養育者班：アレルギー疾患の子どもを持つ養育者および成人(20 歳以上)患者本人を対象としたアンケートを、インターネットを通じて行った。

アンケートは Google フォームで公開し、全国のアレルギー患者会や支援団体、医療機関、それらが発信する Social networking service (SNS) や Web サイト、関連学会の Web サイト(アレルギーポータルを含む)などを通して回答者をリクルートした。内容は、災害の経験、自助・公助・共助の状況、既存ツールの評価などである(資料 3)。回答期間は 2021 年 1 月 4 日～2021 年 2 月 28 日とした。

3. 災害医療従事者班：文献・資料を検索し、これまでの災害医療における問題点等の情報を収集し、基礎資料とした。また、実際に災害医療にあたる医師、看護師、薬剤師、栄養士を研究協力者に加えヒアリングを行い、災害医療従事者のアンメットニーズを抽出するのに適した質問項目を検討した。職種や災害時の支援のタイミングによってニーズが異なることが想定されたため、災害医療コーディネータ、薬剤師、栄養士向けにそれぞれアンケートを作成した(資料 4～7)。

4. 関連学会連携構築班：現在関連学会・各種団体によって行われている活動、連携について、調査を行った。その情報に基づいて、大規模災害時における相談窓口一本化、関連学会・団体の支援体制のための連携構築についての草案を作成した。

5. ツール作成班：ツールを作成するための予備調査として、①医学関連学会の災害関連情報の公開状況と②自治体の災害関連情報の中でも、食料備蓄、食物アレルギー対応に関する情報の公開状況を調査した。①の対象は臨床医学関連 35 学会と小児科学会分科会 24 学会の公式ウェブサイトとし、災害関連情報の掲載有無、情報提供方法、情報の提供対象(一般市民、医療者)をチェックした。②の対象は 47 都道府県と道府県庁所在地の都市、政令指定都市の公式ウェブサイト、食料備蓄情報の掲載有無と食物アレルギー対応についての情報の有無。アクセスのしやすさを確認した。

C. 研究結果

各担当班の結果の概要を記載する。詳細は分担研究報告書を参照のこと。

1. 行政班：アンケートⅠでは 323、アンケートⅡでは 186 の自治体より有効回答が得られた。

アレルギー対応食の備蓄、福祉避難所などの要配慮者を受け入れる目的の避難所の設置、医療機関・災害医療従事者との連携、食物配布の際の配慮、シャワーなどの入浴施設の確保、避難所の禁煙化など、被災の経験を契機として、多くの自治体で対応策が進んでいることが判明し、行政において食物アレルギー患者が災害時要配慮者であるという認識が浸透しつつあることが示された。しかしながら、備蓄に関して情報公開がない、アレルギー対応食の配布方法が定まっていない、災害担当者間で情報が共有されていないなど、細部に関しては対策が不十分であることもわかった。

患者の自助の啓発不足、行政向けの資料の不足、職員の知識の不足などが問題視されており、患者、行政職員のための講習やパンフレットなどの学習機会への要望が多かった。資料としては、電子パンフレットの希望が最も多かったが、紙媒体、オンラインマニュアルなど他の媒体の希望も多かった。また、学会等の既存ツールの認知度は低かった。患者情報の収集も問題となっており、患者情報を簡便に得るためのツール—たとえば患者カード、サインプレート等を希望する自治体もあった。その他、COVID-19 によって職員の負担が増加した、人員が不足したという声があった。

2. 患者・養育者班：ネットを通じてのアンケート調査では、3554 件の回答が得られ、そのうち 3471 件が有効回答であった。養育者からの回答が 1350 件、成人患者本人からの回答が 2121 件であった。大多数が SNS 経由でアンケートにアクセスしていた。

アンケートにより、公的避難所の場所を知らない者が多い、行政の食糧備蓄を把握している者が少ない、家庭での備蓄をしていない者が一定数ある、家族のアレルギー疾患を周囲に知らせるカード、サイ

ンプレートなどを入手している者が少ないなど、自助の取り組みは進んでいるものの不十分であることが判明した。

また、情報不足に対する懸念が強いことが判明した。平時、災害時に知りたい情報は多岐にわたり、網羅的な情報提供の必要性が判明した。希望する提供方法も Web サイト、SNS、印刷物、電子媒体と幅広い方法に分かれた。「アレルギーポータル」を知らない者が 70%であるなど、既存の行政、関連学会などの資料・ツールの認知度は低かった。

3. 災害医療従事者班：文献など資料の調査、災害医療従事者への聞き取り、アレルギー専門医の意見収集により、日本で災害が増加していること、災害によりアレルギー疾患は悪化すること、平時の医療と災害時の医療は異なること、災害サイクルを考える必要があること、アレルギー疾患に関しては予防的措置が可能であること、自助、共助、公助のすべてが重要であること、食料・薬剤の備蓄や連携構築など平時からの準備が重要であること、食支援においては連携が重要であることなどが重要なポイントであると判明した。これに、COVID-19 などの感染症の影響、既存ツールの認知度・利用度などを考慮し、アンケートを作成した。

アンケートは災害医療コーディネータ向け、薬剤師向け、栄養士向けの 3 種を作成した(資料 4～7)。層別化解析をするための情報を共通の質問として設定する、層別化解析を想定した分枝を設定するなど、細かなニーズを抽出する工夫を行った。災害医療従事者が COVID-19 蔓延化で多忙であることも考慮し、質問は短時間で回答できるような構成にした。

4. 関連学会連携構築班：日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、日本小児臨床アレルギー学会、日本栄養士会、日本薬剤師会など学会・団体がそれぞれ個別に活動を行っているのはいるものの、連携のもと、まとまった活動が行われているわけではないこと、それら活動の認知度は低いこと、関連各学会のアレルギー疾患対応に関する温度差が存在することが判明した。そこで、まずは温度差の生じにく

い内科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科のアレルギー専門医がそろって属している日本アレルギー学会を中心とした相談窓口を構築すること、厚生労働省と日本アレルギー学会が運営しているアレルギーポータルなどのポータルサイトを入り口としてアクセスしやすくすることを念頭に、「アレルギー関連災害対応窓口」の草案を作成した（分担報告書に記載）。

5. ツール作成班：①の調査では、臨床医学関連 35 学会の 54%が主に医師向けの情報を提供し、小児科学会分科会 24 学会のうち 5 学会が情報を掲載し、3 学会は医師および一般向け、1 学会は医療者向け、1 学会は一般向け情報の提供をしていたことがわかった。学会に関しては、情報へのアクセスは比較的容易であった。②の調査では、都道府県の 36%、道府県庁所在都市と政令指定都市の 92%で食料備蓄情報が掲載されていることがわかった。後者ではさらに 51%で食物アレルギー対応について記載されていた。アクセシビリティに関しては、トップページや検索からアクセスできない、対応部署名が各自治体で異なるため部署名では検索できないなど、一般市民が情報にアクセスが困難である場合が散見された。

D. 考察

本研究の令和 3 年度の目標として

- ①各分担班アンケートの詳細な解析による細かなニーズの抽出
- ②行政、患者・養育者、災害医療従事者向けのツール作成
- ③関連学会・団体の連携強化と窓口一本化を掲げている。

行政、患者・養育者に対するアンケート調査の基本的な解析によって、現在の状況と具体的な問題点、必要な情報や要望などが明らかになり、今後の災害対応を考えるうえで貴重な情報が得られた。これに、今後行われる災害医療従事者向けのアンケート結果を加えて、ツール作成班がツール作成を行う際の基礎データとする。

現状の解析により大きな方向性はわかったものの、有効なツール作成には不十分であると考えている。災害の種類・規模、復旧までの時間、自治体の規模、地理的条件、疾患やアレルゲンの種類、年齢など複数の条件で層別化しサブグループ解析を行うなど、より詳細な解析が必要であり、さらに細かいニーズを抽出する。

さらに、各分担班のアンケート単独の解析だけではなく、複数のアンケートを横断的に解析し、多面的な視点から分析することによって、さらに細かなアンメットニーズを把握できると考えている。一例を挙げると、今回行政班のアンケートで個人のアレルギー情報を記したカードのようなツールを活用したいという要望があったが、患者へのアンケートでは、個人のアレルギー情報をスタッフに伝えたいにもかかわらず個人カードを知っている人は少なかった。どちらにもニーズがあるのに、かみ合っていないわけである。行政向け、患者向けツールに、個人カードの活用法、ひな形など掲載すれば、アレルギー情報の伝達がより容易になることが期待できる。

ツール作成班はこれら解析データに基づいて、ツールを作成する。ツールは様々な集団のニーズを満たすべく、point to point で網羅的であることを目指す。アプリ作成も検討しているが、コストベネフィットから考えると、現時点ではツールの中心は PDF となると思われる。PDF はオンラインマニュアル、あらかじめダウンロードして PC や携帯機器に保存しておくオフラインマニュアル、印刷した紙のマニュアルといったように複数の目的に使用できる。作成の際に、アクセシビリティがよいこと、必要十分な情報量であること、知りたいことがすぐ見つかるように検索性が高いことを念頭に置く。さらに、統一書式の患者カードも作成する。

ツールを作成しても、周知が徹底していなければ、有効なツールとはならない。今回の患者・行政へのアンケートでは既存ツールの認知度は低かった。周知のための広報活動が重要であり、今後の検討課題である。自治体、保健所、病院、患者会などへ広範囲に資料を配布することがひとつの方法だが、SNS

の活用も検討したいと考えている。今回、患者・養育者班のアンケートにはweb ベースのアンケートサイトを活用したが、日常的にアレルギー情報を発信している複数のアレルギー専門医の SNS を経由したアクセスが多かった。しかも、数日で千人単位のアクセスがあるなど、情報伝達の迅速性も判明した。SNS は偽情報などノイズが多いことが欠点だが、検討に値すると考えている。

E. 結論

分担班のアンケート調査、資料調査により、災害時のアレルギー疾患に対応するためのツール作成に役立つ情報を得ることができた。今後は、さらに詳細にデータを解析し、有効なツール作成と一本化した窓口の開設など支援システムの構築を行うとともに、適切な情報伝達のあり方も検討する。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 (予定)

○行政における災害時の「アレルギー疾患対応の経験」に関するアンケート調査

堀野智史、平瀬敏志、小池由美、貝沼圭吾、安富素子、杉山晃子、服部希世子、中森知毅、平山修久、木作尚子、岡藤郁夫、長岡徹、伊藤靖典、三浦克志、藤澤隆夫、小林茂俊

第 70 回日本アレルギー学会学術大会 2021. 10. 8-10. 10

○行政における災害時の「アレルギー疾患に対する備え」に関するアンケート調査

平瀬敏志、堀野智史、小池由美、貝沼圭吾、安富素子、杉山晃子、服部希世子、中森知毅、平山修久、木作尚子、岡藤郁夫、長岡徹、伊藤靖典、三浦克志、藤澤隆夫、小林茂俊

第 70 回日本アレルギー学会学術大会 2021. 10. 8-10. 10

○アレルギー疾患を持つ方と家族の災害への備えに関するアンケート調査

伊藤浩明、正木克宜、小林茂俊、杉浦至郎、福家辰樹、堀野智史、堀向健太、木下美沙子、二村恭子、服部佳苗、長岡徹、園部まり子

第 70 回日本アレルギー学会学術大会 2021. 10. 8-10. 10

○シンポジウム 大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題とその対応

平瀬敏志、堀野智史、杉浦至朗、宮本学、吉田幸一、小林茂俊

第 58 回日本小児アレルギー学会学術大会 2021 年 11. 13

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許出願

予定を含めてなし

2. 実用新案登録

予定を含めてなし

3. その他

特になし

災害時の「アレルギー疾患対応の経験」に関するアンケート調査

地方自治体名・担当部署 _____

このアンケート調査は、厚生労働科学研究費補助金による「大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究」の一部として実施しています。各自治体において大規模な地震や水害等の災害におけるアレルギー疾患を有する方への対応や体制について、課題や苦勞している点などを把握させていただき、今後、災害対策（自助・共助・公助）に役立つツールを開発するために活用させていただきます。

なお、このアンケートの結果について、各自治体名などの公表は一切行いません。（各地方（例：東北地方）別に調査結果を集積・公表することはございます。）また、質問の内容で不明な点があった場合にご照会させていただくことがありますのでご了承ください。

下記の3つの項目についてのアンケートとなっています。

- I 災害の種類・規模・一般的対応や災害計画に関すること
- II 災害時の保健活動に関すること
- III その他

各自治体の防災ならびに保健活動を所管している部署でのご回答をお願いいたします。

尚、当アンケート調査に関しての倫理審査は宮城県立こども病院倫理委員会での審査を受けております。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡いただけますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

分担研究者

宮城県立こども病院 アレルギー科 三浦克志

989-3126 仙台市青葉区落合4-3-17

TEL:022-391-5111/FAX:022-391-5118

p

I 災害の種類・規模・一般的対応や災害計画に関すること

問1 貴地域で、2015年（平成27年）以降に災害救助法が適用された災害がありますか？

ある場合にはその年月と災害内容を教えてください。

※複数回被災されている場合はライフラインやインフラの被害が最も大きかった災害の記載をお願いいたします。

- あり 西暦 _____ 年 _____ 月
- 地震 台風・洪水 豪雪 噴火 大規模火災
- その他（ _____ ）

なし →問20にお進みください

問2から問19までの質問では問1で回答した災害について教えてください。

問2 その災害で、公共公益設備に関するライフラインの被害がありましたか。

あった場合、復旧までにどの程度の期間を要しましたか。

(最も長い期間でお答えください。)

電気 あり なし

復旧まで 3日以内 4~7日 8~30日 31日以上

上水道 あり なし

復旧まで 3日以内 4~7日 8~30日 31日以上

ガス あり なし

復旧まで 3日以内 4~7日 8~30日 31日以上

問3 その災害で、情報伝達に障害はありましたか？(複数回答可)。

障害なし

障害あり

携帯電話 固定電話 テレビ・ラジオ 有線放送

インターネット(SNS含む) 防災行政無線

その他(自由記載)

問4 その災害で、自治体の水・食料備蓄は不足しましたか。

不足しなかった

不足した(水 食料)

わからない

問5 その災害で、被災者による避難所の利用はありましたか。

あり なし

問6 その災害で、要配慮者を受け入れる「福祉避難所」の設置はありましたか。また、要配慮者の対応を目的とした「福祉避難所」以外の避難所等の指定はありましたか。(複数回答可)

福祉避難所を設置した

福祉避難所以外の避難所を指定した

いずれも設置しなかった

わからない

その他 ()

上の質問で「食事がとれず困っている人がいた」、または「症状が出た」に該当する場合、その対応で困ったことがあれば教えてください。

- 対処できた
- 症状がでた際、患者が薬剤を持参していなかった
- 症状がでた際、その重症度がわからなかった (受診すべき状態かわからなかった)
- 症状がでた際、病院搬送する手段がなかった
- 病気の種類 (名前) がわからなかった
- アレルギー対応食 (備蓄・持参含め) がなかった
- 何を食べさせてよいのかわからなかった
- 備蓄食品にアレルギー表示がなかった
- その他 ()

アトピー性皮膚炎 あった なかった

- 患者が薬剤を持参していなかった 病院受診をする手段がなかった
- 症状の重症度がわからなかった (受診すべき状態かわからなかった)
- シャワー浴や体拭きなどができる環境・準備がなかった
- その他 ()

気管支ぜん息 あった なかった

- 患者が薬剤を持参していなかった 病院受診をする手段がなかった
- 症状の重症度がわからなかった (受診すべき状態かわからなかった)
- 粉塵、ダニ、スギ花粉など環境が悪かった
- その他 ()

アレルギー性鼻炎・結膜炎 あった なかった

- 受診する手段がなかった 患者が薬剤を持参していなかった
- 症状の重症度がわからなかった (受診すべき状態かわからなかった)
- 粉塵、ダニ、スギ花粉など環境が悪かった
- その他 ()

問 16 その災害で避難所でのアレルギー疾患を有する方に対する対策で工夫された点がありましたか。工夫した対策がありましたら教えてください。

食物アレルギー

(例：炊き出しや配布食料のアレルギー表示を掲示する、食事を配る際にアレルギーの有無を確認するなど)

- あり ()
- なし
- わからない

アトピー性皮膚炎

(例：プライバシーに配慮した体拭きや軟膏塗布のできる場所を確保した、皮膚を清潔にするためにウェットティッシュを提供したなど)

- あり ()
- なし
- わからない

気管支ぜん息

(例：喘息を有する方を含む基礎疾患を持つ避難者のリスト作成、分煙または禁煙の徹底、ペットの隔離など)

- あり ()
- なし
- わからない

問 17 その災害で、アレルギー疾患（食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎・結膜炎など）を有する方に関する対応について、貴自治体への要望はありましたか。「あり」の場合、要望はどこからのものでしたか。

また、どのような要望でしたか。

- あり
 - 患者やその家族
 - 医療機関
 - 自衛隊
 - 消防
 - NPO、患者会
 - ボランティア
 - その他（自由記載）

要望内容（例：医療機関より、市町村でアレルギー関連の医薬品を備蓄して欲しいと要望があった。患者会よりアレルギー用ミルク配布の要望があった等。）

()

- なし

わからない

問 18 その被災から約 1 か月以内で上記以外のアレルギー疾患を有する方の対応に関して貴自治体で困った事例や問題となった事例はありますか。「あり」の場合は具体的に教えてください。(例：薬剤アレルギーのために備蓄の薬剤や市販薬 (OTC) が使えないなどで困った方がいた等))

あり

内容 ()

なし

わからない

問 19 その被災から 1 か月以上経過した時期 (慢性期) で、アレルギー対応を有する方に関して困ったことはありましたか。「あり」の場合は具体的に教えてください。(例：仮設住宅でダニやカビにより気管支喘息やアレルギー性鼻炎などを起こす避難者が多くなった。)

あり

内容 ()

なし

わからない

問 20 アレルギー疾患の対応に関して、被災した経験から講じた対策や、対策の計画があれば教えてください。

アレルギー対応食の備蓄 アレルギー治療薬の備蓄

アレルギー疾患を有する方の自助のための啓発 (アレルギー食備蓄など)

アレルギー疾患を有する方の把握 (数・分布) 避難所の入浴設備の確保

避難所の禁煙化 地域病院との連携 災害医療従事者との連携

日本栄養士会との連携

その他 (自由記載) ()

特になし

問 21 現在、災害時に要配慮者を受け入れる「福祉避難所」となる施設はありますか。

あり

なし

わからない

Ⅲ その他

災害および保健活動を担当する部署のご回答をお願いいたします。

問22 災害時に避難所で以下のアレルギー疾患を有する避難者の情報を、把握していますか。

食物アレルギー している していない

している場合、下記も把握していますか

原因となる食品 薬の所持（アドレナリン自己注射薬等）

気管支ぜん息 している していない

アトピー性皮膚炎 している していない

アレルギー性鼻炎・結膜炎 している していない

問 23 問 22 の避難所のアレルギー疾患を有する避難者の情報はどのように把握しますか。

- 問診票（紙媒体）
- スマホやインターネット等
- 直接聞き取り（電話を含む）
- その他（ ）

問 24 現在の新型コロナウイルス感染症の対策において、アレルギー疾患に関して困っていること等あります。ある場合には教えて下さい。

- ある
内容（ ）
- ない

問 25 本研究ではアンケート結果を基に、災害時にアレルギー疾患に関連する情報を自治体に提供するシステムを検討しています。自治体向けの災害時アレルギー疾患に関連する情報はどのような形で提供されるのが望ましいですか。回答しているあなた自身のお考えをお答えください。（複数回答可）。

- 紙（印刷されたパンフレットや冊子）
- PDF（携帯、タブレット、パソコンで見られる電子パンフレット）
- 特設の web サイト（インターネットにアクセスして閲覧できるホームページ）
- その他（自由記載）

問 26 災害時のアレルギー疾患に関する相談窓口として、自治体（回答されている方の所属部署で結構です）からどこに相談できると助けになりますか。（複数回答可）

- 学会など専門医の窓口
- 地域の基幹病院（災害拠点病院・アレルギー拠点病院もしくはそれに準じた総合病院）
- 地域の医師会
- その他（ ）

問 27 災害時のアレルギー疾患の対応に関して医療機関、アレルギー関連学会に望むこと、上記の設問以外に困ったこと、現在も困っていること等ご意見があればご自由に記載してください

以上で質問は終了になります。
御協力誠にありがとうございました。

災害時における「アレルギー疾患に対するの備え」に関するアンケート調査

地方自治体名・担当部署 _____

このアンケート調査は、厚生労働科学研究費補助金による「大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究」の一部として実施しています。各自治体において、大規模な地震や水害等の災害におけるアレルギー疾患を有する方への対応や体制について、課題や苦勞している点などを把握させていただき、今後、災害対策（自助・共助・公助）に役立つツールを開発するために活用させていただきます。

なお、このアンケートの結果について、各自治体名などの公表は一切行いません。（各地方（例：東北地方）別に調査結果を集積・公表することはございます。）また、質問の内容で不明な点があった場合にご照会させていただくことがありますのでご了承ください。

何卒 ご回答の程よろしくお願ひいたします。

尚、当アンケート調査に関する倫理審査は宮城県立こども病院倫理委員会での審査を受けております。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡いただけますと幸いです。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

分担研究者

宮城県立こども病院 アレルギー科 三浦克志

989-3126 仙台市青葉区落合4-3-17

TEL:022-391-5111/FAX:022-391-5118

【災害の状況について】

問1 過去5年（平成28年度～令和2年度）に災害救助法が適用された災害を経験しましたか。

- 経験した →問2をお答えください
- 経験していない →問3にお進みください

問2 災害救助法が適応された具体的な災害名を教えてください。

（例：令和元年度 台風19号に伴う災害）

【アレルギー用ミルク・食料の備蓄について】

問3 自治体でアレルギー用ミルクの備蓄はしていますか。

- している
 - していないが、準備・検討している
 - 予定していない
- } → 問4をお答えください
- } → 問5にお進みください

問4 アレルギー用ミルクの備蓄量についてどのように決めましたか/決める予定ですか。

- 自治体のアレルギー患者数や過去の災害記録などから概算を出した
- 学会等のガイドラインを参考にした
(2018年の日本小児アレルギー学会の「大規模災害対策におけるアレルギー用食品の備蓄に関する提案」等)
- 地域のアレルギー専門医や小児科専門医と相談して決定した
- 特に根拠はない
- その他 ()

問5 自治体でアレルギー除去食品*を備蓄していますか。

*アレルギー用ミルクを除く、鶏卵・牛乳・小麦を含まないおかゆなど

- している
 - していないが、準備・検討している
 - 予定していない
- } →問6、7をお答えください
- } →問8にお進みください

問6 アレルギー用ミルクやアレルギー除去食品を備蓄している場所は決まっていますか。決まっている場合はどこですか。(複数回答可)

- 決まっている
 - 指定されているすべての避難所
 - 指定されている特定の避難所
 - 避難所以外の食料保管施設
 - その他 ()
- 決まっていない

問7 自治体の住民に対してアレルギー用ミルクやアレルギー除去食品の自治体の備蓄について公表していますか。公表している場合は周知方法をお答えください。(複数回答可)

- している
 - 自治体のホームページ
 - SNS (Facebook・LINE・Twitter・Instagram・その他)
 - メディア (テレビ・ラジオ・地方紙・その他)

- 自治体の広報誌
- 紙媒体の災害関連パンフレット
- 防災センターなど住民に公開されている防災関係の施設
- その他 ()

していない

問8 流通在庫備蓄としてアレルギー用ミルクやアレルギー除去食品が含まれていますか。

- 含まれている
- 含まれていない

問9 アレルギー用ミルクやアレルギー除去食品の備蓄量や備蓄場所について災害担当部署と保健活動担当部署で協議等、情報共有をおこなっていますか。

- している
- していない

問10 避難所で食料や食事（炊き出し、弁当を含む）の提供を行う際に食物アレルギーを有する避難者に配慮した準備をしていますか？（複数回答可）

- 準備している
 - 提供する食料や食事の原材料表示するための資材
 - 資材はないが、避難所で使用食品を掲示するように取り決めている
 - 食物アレルギーを有する避難者がわかるようなカードやピブス等
 - その他 ()
- 準備していない

また、どのような資材があれば活用できますか。

()

【普及・啓発について】

問11 アレルギー除去食品の自宅備蓄を普及・啓発する活動等をこれまで行ったことがありますか。

- ある
 - 行っている普及・啓発する活動がありましたら教えて下さい

()

ない

問12 被災時にアレルギー疾患の対応可能な病院・医院のリスト等を作成していますか。
作成している場合には地域住民に対して公開の有無についてお答えください。
(複数回答可)

- 作成している
- HP に公開している (自治体の HP ・ 病院の HP)
 - 自治体のパンフレット等にて公開している
 - その他の方法で公開している ()
 - 非公開である
- 作成していない

【災害時の対応について】

問13 災害時、全国からのアレルギー除去食品の救援支援物資を自治体の職員が受け取る場所は決まっていますか。 決まっている場合はどこですか。(複数回答可)

- 決まっている
- 事前に指定した一部の一般避難所
 - 事前に指定した福祉避難所
 - 役所など自治体の機関
 - その他 ()
- 決まっていない

問14 アレルギー対応のミルクや食品の救援支援物資の受け取りについて困っていることや課題があれば教えてください

()

問15 アレルギー用ミルク・アレルギー除去食品の備蓄・救援支援物資をどのように分配するか決まっていますか。(複数回答可)

- アレルギー疾患を有する住民からの要望を受けたら、その都度配布する
- 指定している場所に備蓄・救援支援物資を集め、アレルギー疾患を有する住民に取りに来てもらう
- 特に決まっていない
- その他 ()

問16 災害時に避難所で以下のアレルギー疾患を有する避難者の情報収集をしていますか/またはする予定ですか。

食物アレルギー している していない
している場合、下記も把握していますか

原因となる食品 薬の所持（アドレナリン自己注射薬等）

気管支ぜん息 している していない

アトピー性皮膚炎 している していない

アレルギー性鼻炎・結膜炎 している していない

問17 問16の避難所のアレルギー疾患を有する避難者の情報はどのように把握しますか。（複数回答可）

- 問診票（紙媒体）
- スマホやインターネット等
- 直接聞き取り（電話を含む）
- その他（ ）

問18 ボランティアや職員等、災害に携わる関係者はアレルギーに関する知識は必要だと思いますか。必要だと思う場合、どのような機会があれば良いですか。（複数回答可）

- 全員に一定度の知識が必要である
- 専門的知識を持つ職員が一部必要である
(どのような機会があればいいか)
 - 定期的な研修会
 - 最低限の知識を理解する冊子やパンフレット
 - 最低限の知識を理解する動画（YouTube、eラーニング等）
 - その他（ ）
- 必要ではない

問19 アレルギー疾患対策として下記の下記の取り組みについて、自治体の視点から重要だと考える順位をつけてください。

- () 平時より個々のアレルギー疾患を有する方に**医師から**アレルギー除去食品の備蓄の啓発をすること
- () 平時より**ボランティアや自治体職員等**に対してアレルギーの知識の啓発（炊き出しの注意など）をすること
- () 平時にアレルギー除去食品の備蓄等を**自治体担当者が直接相談できる窓口**を作ること
- () 災害時にアレルギー疾患について**自治体担当者が直接相談できる窓口**を作ること（電話 ・ メール ・ その他（ ））
- () 災害時に自治体に向けたアレルギー疾患に関する情報を発信すること

その他、希望する取組があれば教えてください

()

問 20 災害時に自治体に向けてのアレルギー疾患への対応に関する情報としてどのような情報がほしいですか。

()

問 21 災害時に自治体に向けてのアレルギー疾患への対応に関する情報はどのような形で提供されるのが望ましいですか。(複数回答可)。

- 紙 (印刷されたパンフレットや冊子)
- PDF (携帯、タブレット、パソコンで見られる電子パンフレット)
- 特設の web サイト (インターネットにアクセスして閲覧できるホームページ)
- その他 ()

問 22 災害時のアレルギーを有する方への対応について困ったご経験 (避難所運営訓練時を含む)、課題と感じていること等があれば教えてください。

以上で質問は終了になります。
御協力誠にありがとうございました。

アレルギー疾患の方とその家族の災害への備えに関するアンケート

【目的】

このアンケート調査は、厚生労働科学研究費補助金による「大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究」の一部として行っています。

アレルギー疾患を持つご本人、又はアレルギー疾患のお子様を持つ養育者（以下、あなた）が、避難を必要とする大規模な地震や水害に対して、どのような備えをされているかに関してお伺いします。この結果は、専門学会や論文などで報告するとともに、アレルギー疾患を持つ方の災害対策（自助・共助・公助）に役立つツールを開発するための資料として活用される予定です。

【対象者】

回答していただく方のアレルギー疾患の目安は、以下の通りです。

アトピー性皮膚炎：1週間に1回以上、ぬり薬を使っている場合

食物アレルギー：食品表示を見て、食べられるかどうか判断している食品がある場合

アナフィラキシー：強いアレルギー症状で病院に緊急受診したことがあり、今もそのリスクが続いている場合

ぜん息：発作予防薬を毎日使用している、又は月1回以上発作止めを使っている場合

アレルギー性鼻炎・結膜炎（花粉症）：鼻や目の症状を抑えるために、しばしば薬を使うことがある場合

【調査内容】

質問は25～32問です。

あなたやご家族のアレルギー疾患の背景、災害時の避難に関する知識や準備状況、行政や医療機関に期待すること、被災経験のある方にはその時の経験などを順に回答して頂きます。ご家族に複数の該当者がいる場合は、家族全体で1回だけご回答下さい。

所要時間は約15分です。

【個人情報の取り扱い】

選択肢の中にあなた個人が特定される情報は含まれず、入力後は回答者を識別できない情報として記録されます。従って、研究者側からあなたの回答について連絡することや、削除することはできません。

この調査は研究分担施設である、あいち小児保健医療総合センター（責任者：伊藤浩明）の倫理審査の承諾を受けて実施しています。

研究班代表者 帝京大学医学部小児科 小林茂俊

研究責任者 あいち小児保健医療総合センター 伊藤浩明

アレルギー疾患の目安に該当するご家族、最大5人まで回答できます

- ある
 ない

4. あなたの家族がお持ちのアレルギー疾患を、それぞれ選んで下さい（複数回答可、アレルギーのない方について書く必要はありません。） 最大5人まで入力できます

ご家族1

あなたとの続柄【1,子ども 2,配偶者 3,父母（配偶者の父母を含む）4, 祖父母（配偶者の祖父母を含む）5, 孫 6,兄弟姉妹 7,その他】

年齢【0歳,1歳,2歳,3歳,4歳,5歳,6歳,7歳,8歳,9歳,10歳,11歳,12歳,13歳,14歳,15歳,16歳,17歳,18歳,19歳,20～29歳,30～39歳,40～49歳,50～59歳,60歳以上】

1 アトピー性皮膚炎 2 食物アレルギー 3 アナフィラキシー 4 ぜん息 5 アレルギー性鼻炎・結膜炎（花粉症） その他（ ）

ご家族2

あなたとの続柄【1,子ども 2,配偶者 3,父母（配偶者の父母を含む）4, 祖父母（配偶者の祖父母を含む）5, 孫 6,兄弟姉妹 7,その他】

年齢【0歳,1歳,2歳,3歳,4歳,5歳,6歳,7歳,8歳,9歳,10歳,11歳,12歳,13歳,14歳,15歳,16歳,17歳,18歳,19歳,20～29歳,30～39歳,40～49歳,50～59歳,60歳以上】

1 アトピー性皮膚炎 2 食物アレルギー 3 アナフィラキシー 4 ぜん息 5 アレルギー性鼻炎・結膜炎（花粉症） その他（ ）

ご家族3

あなたとの続柄【1,子ども 2,配偶者 3,父母（配偶者の父母を含む）4, 祖父母（配偶者の祖父母を含む）5, 孫 6,兄弟姉妹 7,その他】

年齢【0歳,1歳,2歳,3歳,4歳,5歳,6歳,7歳,8歳,9歳,10歳,11歳,12歳,13歳,14歳,15歳,16歳,17歳,18歳,19歳,20～29歳,30～39歳,40～49歳,50～59歳,60歳以上】

1 アトピー性皮膚炎 2 食物アレルギー 3 アナフィラキシー 4 ぜん息 5 アレルギー性鼻炎・結膜炎（花粉症） その他（ ）

ご家族4

あなたとの続柄【1,子ども 2,配偶者 3,父母（配偶者の父母を含む）4, 祖父母（配偶者の祖父母を含む）5, 孫 6,兄弟姉妹 7,その他】

年齢【0歳,1歳,2歳,3歳,4歳,5歳,6歳,7歳,8歳,9歳,10歳,11歳,12歳,13歳,14歳,15歳,16歳,17歳,18歳,19歳,20～29歳,30～39歳,40～49歳,50～59歳,60歳以上】

1 アトピー性皮膚炎 2 食物アレルギー 3 アナフィラキシー 4 ぜん息 5 アレルギー性鼻炎・結膜炎（花粉症） その他（ ）

ご家族5

あなたとの続柄【1,子ども 2,配偶者 3,父母（配偶者の父母を含む）4, 祖父母（配偶者の祖父母を含む）5,

孫 6, 兄弟姉妹 7, その他】

年齢【0 歳, 1 歳, 2 歳, 3 歳, 4 歳, 5 歳, 6 歳, 7 歳, 8 歳, 9 歳, 10 歳, 11 歳, 12 歳, 13 歳, 14 歳, 15 歳, 16 歳, 17 歳, 18 歳, 19 歳, 20～29 歳, 30～39 歳, 40～49 歳, 50～59 歳, 60 歳以上】

1 アトピー性皮膚炎 2 食物アレルギー 3 アナフィラキシー 4 ぜん息 5 アレルギー性鼻炎・結膜炎（花粉症） その他（ ）

5. あなた又はご家族がお持ちのアレルギー疾患の原因物質を、すべて選んでください（複数回答可）

1 鶏卵 2 牛乳 3 小麦 4 ピーナッツ 5 ナッツ類 6 甲殻類（エビ・カニなど） 7 そば
8 魚類（アニサキス含む） 9 大豆（豆乳・豆腐・もやし） 10 果物 11 その他の食物（食品名
）
12 ダニ・ハウスダスト 13 スギ花粉 14 スギ以外の花粉 15 動物 16 薬剤
17 ハチ毒
18 ラテックス 19 その他（ ）

6. あなた又はご家族がアレルギー疾患で受診している医療機関を選んで下さい（複数回答可）

1 病院のアレルギー専門外来に定期受診している
2 喘息・アレルギーを専門とするクリニックに定期受診している
3 一般のクリニック（内科・小児科・皮膚科・耳鼻科など）、又は病院の一般外来に定期受診している
4 定期的に受診する医療機関はない（症状悪化時に受診する医療機関は決まっている）
5 アレルギーで受診する医療機関は、特に決めていない
6 アレルギーの問題で医療機関を受診したことはない

7. あなた又はご家族がアレルギー疾患のために常用/常備している薬を、すべて選んでください（複数回答可）

1 エピペン®（アナフィラキシー時の自己注射薬）
2 ぜん息・アレルギーの治療のために自分で注射する薬（生物学的製剤）
3 ぜん息・アレルギーの治療のために病院で定期的に注射する薬（生物学的製剤）
4 飲み薬（毎日内服するもの）
5 飲み薬（必要時のみ内服するもの）
6 吸入薬（吸入時に電源が必要なタイプ）
7 吸入薬（吸入時に電源が不要なもの）
8 ぬり薬（毎日ぬるもの）
9 ぬり薬（必要時のみ）
10 点眼・点鼻薬（毎日使うもの）
11 点眼・点鼻薬（必要時のみ使うもの）

8. アレルギー用のミルク（牛乳アレルギー児も飲める粉ミルク）使用について1つ選んで下さい。

1 牛乳アレルギーの乳児がいないので該当しない
2 牛乳アレルギーの乳児がいるが、母乳で足りていてアレルギー用のミルクを使うことはない
3 牛乳アレルギーの乳児がいて、母乳中心だがたまにアレルギー用のミルクが必要になる

□4 牛乳アレルギーの乳児がいて、日常的に主にアレルギー用のミルクを使っている

(3,4 と回答した方)

使っている商品 □1 ニューMA-1 □2 MA-mi □3 ミルフィー □4 ボンラクト □5 その他 ()

9-1. 災害で自宅が使えなくなった場合、どこに避難するか決めていますか？(複数回答可)

□1 公的避難所 [□ 小学校 □ 中学校 □ 公民館 □ 体育館 □ その他 ()]

□2 親族・知り合いの家(台風などの事前避難も含む)

□3 ホテル・宿泊施設(台風などの事前避難も含む)

□4 自家用車

□5 決めていない

□6 その他(記載)

9-2. (設問 9-1 「公的避難所」を選択しなかった方) その理由をお聞かせください

()

10. あなたの居住地で指定されている公的避難所の場所を、家族全員(小学生以上のお子様)が知っていますか？(単身世帯の方は、1.または3.でご回答ください)

□1 家族全員が知っている

□2 自分は知っているが、家族が知っているかどうかわからない

□3 自分もわからない

11-1. あなたが居住する自治体(市町村)に、あなた・ご家族が食べられるアレルギー不使用食品が備蓄されているかどうか知っていますか？

□1 備蓄されていることを知っている (次設問で具体的な食品名をご記入ください)

□2 備蓄されていないことを知っている

□3 備蓄されているかどうか知らない

□4 特別な食品は必要ない

11-2. (設問 11-1 の回答 1 「知っている」の具体的な食品名をご記入ください)

()

12. 日本栄養士会が、災害時に特殊栄養食品ステーションを設置して地域の救援活動を行うことを知っていますか？

□1 知っている

□2 聞いたことはある

□3 知らない

13. 地域の防災訓練に参加したことがありますか？

□1 参加して、防災訓練担当者とアレルギーの話をしたことがある

□2 参加したことはあるが、アレルギーの話はしなかった

- 1 名前は聞いたことがあり、閲覧したことがある
- 2 名前は聞いたことがあるが、閲覧したことはない
- 3 名前も知らない

19. アレルギー専門学会もしくは自治体が作っているアレルギーの防災関連のパンフレットや相談窓口で知っているものを選んで下さい(複数回答可)

- 1 学会作成のパンフレット
- 2 学会による相談窓口
- 3 自治体作成のパンフレット
- 4 自治体の相談窓口
- 5 いずれも知らない

20. お子様のアレルギー情報を周囲に知ってもらうための「食物アレルギーサインプレート」や名札、災害時のお願ひカードなど（自作したものも含む）について、当てはまるものを1つ選択して下さい。

- 1 使えるように記入して、実際に使ったことがある
- 2 使えるように準備してあるが、実際に使ったことはない
- 3 持っているが、使う準備はしていない
- 4 具体的なものを知っているが、自分では持っていない
- 5 そのようなものがあることを、聞いたことはある
- 6 そのようなものがあることを知らない

21. 避難所で過ごすことになった時、心配なことはどんなことですか？（複数回答可）

- 1 食べられるものの確保
- 2 入浴・スキンケア不足
- 3 ホコリなど室内環境
- 4 常用薬の不足
- 5 症状出現時の対応
- 6 周囲のアレルギーへの理解
- 7 新型コロナなどの感染症
- 8 ペット同伴
- 9 その他： ()

22-1. 災害時にアレルギー疾患に関して相談する相手と方法について伺います。

相談相手は誰が良いですか？（2つ選択してください）

- 1 医師
- 2 看護師
- 3 保健師
- 4 薬剤師
- 5 栄養士
- 6 患者会

7 上記のいずれでもない

8 その他 ()

22-2. 相談方法は何が良いですか？（2つ選択してください）

1 電話

2 メール（e-mail や携帯メール）

3 掲示板

4 Twitter、Facebook、LINE など SNS

5 直接対面

6 上記のいずれでもない

7 その他 ()

23. 行政機関（都道府県、市町村、保健所等）や医療機関（病院、診療所等）の災害時アレルギー対応について、期待することを教えてください（自由記載）

24. 平時（日常）に入手する災害関連情報として、何が知りたいですか？（複数回答可）

1 地域のハザードマップや避難所の情報

2 地域自治体の食糧備蓄に関する情報

3 災害時にアレルギーについて相談できる公的機関の情報

4 災害時にアレルギーについて相談できる民間の支援団体の情報

5 災害時にもアレルギーについて受診できる医療機関の情報

6 県外などに広域避難することに備えて、他の地域の情報

7 自宅で準備しておくとい、備蓄品に関する情報

8 その他 ()

25. 平時（日常）に災害関連情報を入手する手段は、何が良いですか？（2つ選んで下さい）

1 紙媒体（印刷されたパンフレットや冊子）

2 電子媒体（携帯、タブレット、パソコンで見られる PDF ファイルなど）

3 web サイト（インターネットにアクセスして閲覧できるホームページ）

4 マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など）

5 SNS（Twitter、Facebook、LINE など）

6 上記のいずれでもない

7 その他 ()

26. 災害時にアレルギー関連の情報を入手する手段は、何が良いですか？（2つ選んで下さい）

1 紙媒体（印刷されたパンフレットや冊子）

2 電子媒体（携帯、タブレット、パソコンで見られる PDF ファイルなど）

3 web サイト（インターネットにアクセスして閲覧できるホームページ）

4 マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など）

5 SNS（Twitter、Facebook、LINE など）

6 上記のいずれでもない

7 その他 ()

27. このアンケート結果を活かして、災害時・平時に役立つパンフレットを作ります。そこにぜひ掲載してほしい医療情報は何か？（複数回答）

1 薬がない時の対処

2 救急外来を受診するめやす

3 治療中断している時の対処法

4 スキンケアの方法

5 悪化予防法

6 粉塵の防止法

7 感染防御について

8 その他 ()

災害のため実際に避難を行ったことがありますか？

ない →回答は終了です

あり →5問お聞きします

28. あなたが経験した災害に関して教えてください（複数回答可）

災害の種類

地震 津波 台風・水害 竜巻・突風 土砂災害 大規模停電 豪雪 火災・噴火 その他 ()

避難場所

公的避難所 親戚・知人宅 宿泊施設 仮設住宅 自宅 車中泊
その他 ()

自宅・仮設住宅以外の避難期間

3日以内 4～7日 8～14日 15～30日 1～3か月 4～11か月 1年以上

自宅で水道・電気・ガスのいずれかが使用できなかった期間

3日以内 4～7日 8～14日 15～30日 1～3か月 4～11か月 1年以上

29. 避難中にアレルギー疾患について困ったことに関して教えてください（複数回答可）

1 食べられるものがなかった

2 皮膚症状が悪化した

3 呼吸器症状が悪化した

4 常用薬が不足した

5 食べたものでアレルギー症状が出た

6 ぜん息発作や強いアレルギー症状が出て、すぐ医療機関を受診した

7 アレルギーに関連して嫌な言葉や対応を受けた

8 アレルギー関係の相談をできる人がいなかった

9 周りの人にアレルギーのことを説明するのが大変だった

- 10 アレルギー関係の情報がなくて不安だった
- 11 症状があったが医療機関を受診できなかった
- 12 アレルギー関連で知りたい情報が得られなかった
- 13 特に困らなかった
- 14 その他 ()

30-1. 避難中のアレルギー疾患に関する相談先（電話・メールなど）について、経験や感想を教えてください。

- 1 相談の必要がなかった
- 2 相談して、役に立った
- 3 相談したが、役に立たなかった
- 4 相談したかったが、相談先がわからなかった
- 5 その他

30-2. (30-1 で相談した方のみ) 避難中のアレルギー疾患に関する相談先（電話・メールなど）について、【相談先】【感想】を教えてください

()

31. 避難中に役に立ったパンフレットや情報サイト、SNS などがあったら教えてください。

()

32. 避難の際に、アレルギー疾患に関して助かったこと、嬉しかったこと等の経験がありましたら、教えてください。

()

最終シート

最後までご回答、ありがとうございました。

今回の調査結果は、アレルギー専門学会や論文などで公表させて頂く予定です。

日本アレルギー学会では、アレルギー疾患に関する情報を集約したウェブサイト「アレルギーポータル (URL: <https://allergyportal.jp>)」を開設しています。ここには、アレルギー疾患に関する病気の説明や、患者さん向けの冊子や医療従事者向けのガイドライン、各地域の医療機関検索、国の取り組みに関する情報、災害時に向けた関連学会や行政からの情報がまとめられています。

本研究班では、今回の調査結果も踏まえて災害時に役に立つツールなどを作成し、2021 年度末を目指してアレルギーポータルにて公開する予定です。是非、ご活用ください。

日本アレルギー学会（アレルギーポータル）

トップページ <https://allergyportal.jp>

災害時の対応 <https://allergyportal.jp/just-in-case/>

アレルギーポータルからアクセスできる災害対応の情報サイトはこちらです

日本小児アレルギー学会（災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット）

<https://www.jspaci.jp/gcontents/pamphlet/>

日本小児臨床アレルギー学会（アレルギー疾患のこどものための「災害への備え」パンフレット）

<http://jspca.kenkyuukai.jp/special/?id=28829>

農林水産省（家庭備蓄ポータル）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/foodstock/index.html>

災害医療従事者向けアンケート 共通の前書き、あとがき

厚生労働省科学研究費：大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究
(代表 小林茂俊)
分担研究；災害医療従事者向けアンケート

◆このアンケートについて

【目的】

このアンケート調査は、厚生労働科学研究費補助金による「大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究」の一部として行っており、災害医療従事者の災害時アレルギー疾患対応に関するアンケート調査です。

アンケートの結果は、災害医療従事者の方々がアレルギー疾患患者への支援を行う際に役立つツールを開発するための資料として活用されます。

【調査に関する情報公開の方法】

この調査は対象者の方などの個人情報が出ない形にして、研究報告書および学会や論文、ホームページ等で発表しますので、ご了承下さい。

【個人情報の取り扱い】

この調査は無記名での調査となります。対象者の方の個人情報が外部に漏れることがないように十分留意します。

◆アンケート内での用語について

本アンケート中の「アレルギー関連学会」は、日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、日本小児臨床アレルギー学会、日本アレルギー協会を指しています。(現在、更なる学会間の連携を構築中です)

このアンケート内での「アレルギー疾患」とは、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎・結膜炎(花粉症を含む)、アナフィラキシー、薬剤アレルギー、その他アレルギー(蜂毒、金属など)を指します。

◆このアンケートは、全部で●問あり、処方時間は約●分程度です。

お忙しいところ大変申し訳ありませんが、ぜひご回答をよろしくお願いいたします。

あとがき

質問は以上です。回答を送信して下さい。お忙しい中、ご回答頂きありがとうございました。

災害医療コーディネーター 医師・看護師・保健師アンケート

<共通>

1. 平時に、災害におけるアレルギー関連疾患やその対応に関する情報を、どのように得たいですか？（複数選択可）

- 1 紙のマニュアル
- 2 PDF やアプリなどの電子マニュアル（オフラインで使えるもの）
- 3 ポータルサイトなどのオンラインマニュアル
- 4 学会の災害時アレルギー相談窓口
- 5 講演・勉強会
- 6 その他 7 ()
- 8 必要なし

2. 災害時に、災害におけるアレルギー関連疾患やその対応に関する情報を、どのように得たいですか？

- 1 紙のマニュアル
- 2 PDF やアプリなどの電子マニュアル（オフラインで使えるもの）
- 3 ポータルサイトなどのオンラインマニュアル
- 4 学会の災害時アレルギー相談窓口
- 5 その他 6 ()
- 7 必要なし

3. 新型コロナウイルスなどの感染症が、災害時のアレルギー疾患患者への支援に影響すると思うことを選んでください。（複数選択可）

- 1 避難所人員定数が減るため、自家用車などで生活する人が増え、アレルギー患者の情報が得られない。
- 2 避難所のスペースを取り検温を実施、発熱などの有症状患者の発見が早く、手指消毒を徹底し感染症にかかりにくい
- 3 災害支援者からの新型コロナ感染を避けるため災害地域外からの人的支援が得にくい
- 4 その他: 5 ()
- 6 影響はない

4. 厚生労働省/日本アレルギー学会が開いている Web 上の情報サイト「アレルギーポータル」をご存じですか？

- 1 アクセスして閲覧したことがある
- 2 名前は聞いたことがあるが、見たことはない
- 3 名前も知らない

5. アレルギー関連学会もしくは自治体が作っている、下記のアレルギーの防災関連のパンフレットや相談窓口のうち、知っているものを選んで下さい。（複数選択可）

- 1 学会作成のパンフレット
- 2 学会による相談窓口
- 3 自治体作成のパンフレット
- 4 自治体の相談窓口
- 5 知っているものはない

6. 前問について、利用したことがあるものを選んで下さい。(複数選択可)

- 1 学会作成のパンフレット
- 2 学会による相談窓口
- 3 自治体作成のパンフレット
- 4 自治体の相談窓口
- 5 利用したものはない

7. 日本小児アレルギー学会では災害支援のため以下のような対策をしています。このなかで、知っているものを選んで下さい。(複数選択可)

- 1 災害時のこどものアレルギーに関する相談窓口
- 2 災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット
- 3 災害派遣医療スタッフ向けのアレルギー児対応マニュアル
- 4 大規模災害対策におけるアレルギー用食品の備蓄に関する提案
- 5 上記のどれも知らない

8. 本研究では、災害時におけるアレルギー患者対応窓口を一本化する目的があります。あなたは、それが必要だと思いますか？

- 1 必要だと思う
- 2 必要だと思わない
- 3 わからない

<災害医療コーディネーター・看護師・保健師対象>

9. あなたの職種を教えてください。

- 1 医師
- 2 看護師
- 3 保健師
- 4 薬剤師
- 5 その他 6 ()

10. あなたは、主にどの段階で災害医療に関与しますか？(複数選択可)

- 1 急性期(災害発生から3日以内)
- 2 亜急性期(災害発生後4日以降から、平時の医療提供が可能となるまで)
- 3 慢性期(平時の医療提供が可能となって以降)

11. あなたは下記アレルギー疾患の、災害に関連した患者対応、調整業務を行ったことがありますか？(複数選択可)

- 1 気管支喘息
- 2 食物アレルギー
- 3 アトピー性皮膚炎
- 4 アナフィラキシー (食物)
- 5 アナフィラキシー (食物以外)
- 6 アレルギー性鼻炎・結膜炎
- 7 薬剤アレルギー
- 8 その他 9 ()
- 10 アレルギー疾患に関して、患者対応も調整業務も行ったことがない

:

12. あなたが災害支援活動中に行った、アレルギー患者の対応や調整業務は何ですか？(複数選択可)

- 1 成人・学童期以降の小児のアレルギー疾患患者の診療
- 2 乳幼児のアレルギー疾患患者の診療
- 3 アレルギー疾患患者の対応方法について相談応需
- 4 避難所や救護所でアレルギー疾患関連薬剤のニーズ把握
- 5 アレルギー疾患関連薬剤の支援調整
- 6 アレルギー除去食品の支援調整
- 7 アレルギー疾患の患者に関して、避難所での衛生環境改善を実施、または衛生環境改善のための調整
- 8 アレルギー疾患の患者の病院搬送の調整
- 9 その他:10 ()
- 11 アレルギー疾患に関して患者対応も調整業務も行ったことがない

13. (簡略版). 災害支援活動中に、あなた(災害支援者)がアレルギー疾患に関して困ったことを下記より選んでください。(複数選択可)

- 1 診療内容について
- 2 薬剤について(処方、患者指導、相談先など)
- 3 食物アレルギーの対応
- 4 避難所の環境について(衛生環境を含む)
- 5 支援物資について(過剰な支援物資の対応を含む)
- 6 その他 7 ()
- 8 困った経験はない

14. (簡略版) 災害支援活動中に、アレルギー疾患で困っている患者さんを見たりきいたりしたことはありますか？あれば選択して下さい。自由記載も可能です。

- 1 食物アレルギー対応など
- 2 被災・避難所でのストレスや周辺環境など
- 3 気管支喘息患者の吸入など

- 4 アトピー性皮膚炎患者の入浴、外用など
- 5 その他： 6 ()
- 7 このような経験はない

15. 災害時のアレルギー疾患患者の医療支援に関して何があるとよいですか。(複数回答可)

オンライン診療マニュアル

- 1 紙媒体の診療マニュアル (マニュアル本、パンフレット)
- 2 電子媒体の診療マニュアル (PDF など)
- 3 アレルギー医療について相談できる窓口
- 4 アレルギー医療について相談できる、災害、アレルギーに詳しい地域の医師、看護師、保健師、薬剤師、栄養士
- 5 その他： 6 ()
- 7 特に何も必要はない

16. 前問(質問 15)の医療支援について、災害時のアレルギー疾患の対応はどこに連絡するのが良いですか?

2つ以内で選んでください。

- 1 被災地のアレルギー拠点病院
- 2 被災地の中核病院 (救急指定病院)
- 3 地域の医師会
- 4 アレルギー関連学会 (電話)
- 5 アレルギー関連学会 (メール)
- 6 アレルギー関連学会 (掲示板)
- 7 アレルギー関連学会 (その他)
- 8 アレルギー専門チームまたはリエゾンに直接相談
- 9 行政の担当窓口
- 10 その他： 11 ()

17. (簡略版)アレルギー疾患患者に対する平時に行うべき災害対策として、必要なものは何ですか?(複数選択可)

- 1 患者自助の啓発
- 2 災害医療従事者への、アレルギー知識の獲得に対する啓発
- 3 アレルギー医療関係者への、災害医療知識の獲得に対する啓発
- 4 行政側のアレルギー対応避難所・備蓄、窓口設置
- 5 その他 6 ()
- 7 特に必要はない

18. 前問(質問 17)で「災害医療支援者の教育」と答えた方は、特に教育が必要な職種は何だと思えますか?(複数選択可)

- 1 医師
- 2 看護師

- 3 保健師
- 4 薬剤師
- 5 栄養士

19. 日本栄養士会が、災害時に特殊栄養食品ステーションを設置して地域の救援活動を行うことを知っていますか？

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

20. 日本栄養士会の特殊栄養食品ステーションに連絡したことがありますか

- 1 ある
- 2 ない

21. 大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題把握とその解決についてご提案、ご意見があれば、お書きください。

()

薬剤師向けアンケート

【対象者】日本薬剤師会、日本病院薬剤師会で災害支援に携わった薬剤師の方

【調査内容】災害支援でのアレルギーに関する情報の入手方法に関すること、処方(調剤)経験に関すること、薬剤の備蓄に関すること、などを回答していただきます。

<共通>

1. 平時に、災害におけるアレルギー関連疾患やその対応に関する情報を、どのように得たいですか？（複数選択可）

- 1 紙のマニュアル
- 2 PDF やアプリなどの電子マニュアル（オフラインで使えるもの）
- 3 ポータルサイトなどのオンラインマニュアル
- 4 学会の災害時アレルギー相談窓口
- 5 講演・勉強会
- 6 その他 7 ()
- 8 必要なし

2. 災害時に、災害におけるアレルギー関連疾患やその対応に関する情報を、どのように得たいですか？

- 1 紙のマニュアル
- 2 PDF やアプリなどの電子マニュアル（オフラインで使えるもの）
- 3 ポータルサイトなどのオンラインマニュアル
- 4 学会の災害時アレルギー相談窓口
- 5 その他 6 ()
- 7 必要なし

3. 新型コロナウイルスなどの感染症が、災害時のアレルギー疾患患者への支援に影響すると思うことを選んでください。（複数選択可）

- 1 避難所人員定数が減るため、自家用車などで生活する人が増え、アレルギー患者の情報が得られない。
- 2 避難所のスペースを取り検温を実施、発熱などの有症状患者の発見が早く、手指消毒を徹底し感染症にかかりにくい
- 3 災害支援者からの新型コロナ感染を避けるため災害地域外からの人的支援が得にくい
- 4 その他: 5 ()
- 6 影響はない

4. 厚生労働省/日本アレルギー学会が開いている Web 上の情報サイト「アレルギーポータル」をご存じですか？

- 1 アクセスして閲覧したことがある
- 2 名前は聞いたことがあるが、見たことはない

3 名前も知らない

5. アレルギー関連学会もしくは自治体がつけている、下記のアレルギーの防災関連のパンフレットや相談窓口のうち、知っているものを選んで下さい。(複数選択可)

1 学会作成のパンフレット

2 学会による相談窓口

3 自治体作成のパンフレット

4 自治体の相談窓口

5 知っているものはない

6. 前問について、利用したことがあるものを選んで下さい。(複数選択可)

1 学会作成のパンフレット

2 学会による相談窓口

3 自治体作成のパンフレット

4 自治体の相談窓口

5 利用したものはない

7. 日本小児アレルギー学会では災害支援のため以下のような対策をしています。このなかで、知っているものを選んで下さい。(複数選択可)

1 災害時のこどものアレルギーに関する相談窓口

2 災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット

3 災害派遣医療スタッフ向けのアレルギー児対応マニュアル

4 大規模災害対策におけるアレルギー用食品の備蓄に関する提案

5 上記のどれも知らない

8. 本研究では、災害時におけるアレルギー患者対応窓口を一本化する目的があります。あなたは、それが必要だと思いますか？

1 必要だと思う

2 必要だと思わない

3 わからない

<薬剤師対象>

9. あなたの所属する施設の立地区域を教えてください

1 () 都道府県 2 () 市町村

10. 災害支援(対応)に、参加した形態についてお答えください。()には具体的な形態をお答えください。

1 薬剤師会

2 日本医師会災害医療チーム(JMAT)

3 災害派遣医療チーム(DMAT)

- 4 災害派遣精神医療チーム(DPAT)
5 日本赤十字社救護班
6 都道府県救護班
7 その他 8 ()
11. その際に処方せんを受け調剤した場所をお答えください（アレルギー以外の薬剤を含む）。
 ()には具体的な場所をお答えください。
- 1 救護所内
2 医療チーム内
3 モバイルファーマシー
4 臨時調剤所 5 ()
6 その他 7 ()
12. 災害支援中に調剤したアレルギー疾患関連内服薬と剤型を選んでください（複数回答可）
- 1 抗ヒスタミン薬（2 錠剤、 3 粉・シロップ 4 0D 錠） <例>アレグラ
5 ロイコトリエン受容体拮抗薬（6 錠剤・カプセル 7 粉 8 0D 錠）<例>オノン
9 ステロイド内服薬（10 錠剤、 11 粉 12 シロップ） <例>リンデロン
13 テオフィリン製剤（14 錠剤、 15 粉） <例>テオドール
16 β 刺激薬（17 錠剤、18 粉、19 シロップ） <例>メプチン
20 その他 21 ()
22 調剤していない
13. 災害支援中に調剤したアレルギー疾患関連吸入薬と剤型を選んでください（複数回答可）
- 1 短時間作用性 β 刺激薬吸入
 （2 吸入液、3 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、4 MDI 補助器具あり、5 ドライ
 パウダー式吸入器）<例>ベネトリン吸入液
6 ステロイド吸入薬（7 吸入液、8 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、 9 MDI 補助器具
 あり、10 ドライパウダー式吸入器）<例>パルミコート懸濁液
11 ステロイド／長時間作用性 β 刺激薬配合薬（12 吸入液、13 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助
 具使用無、 14 MDI 補助器具あり、15 ドライパウダー式吸入器） <例>アドエアなど
16 ステロイド／長時間作用性 β 刺激薬／長時間作用型抗コリン薬配合薬
 <例>テルルジーなど
17 吸入補助器具
18 その他 19 ()
20 調剤していない
14. 災害支援中に調剤したアレルギー疾患関連外用薬・注射薬を選んでください（複数回答可）
- 1 抗ヒスタミン薬（点鼻） <例>ザジテン点鼻液
2 ステロイド薬（点鼻） <例>ナゾネックス
3 血管収縮薬（点鼻） <例>トラマゾリン

- 4 抗ヒスタミン薬（点眼） <例>パタノール点眼液
- 5 ステロイド薬（点眼） <例>フルメトロン点眼液
- 6 ステロイド薬（外用） <例>ロコイド軟膏
- 7 抗ヒスタミン薬（外用） <例>レスタミン
- 8 免疫抑制薬（外用） <例>プロトピック
- 9 保湿剤 <例>ヒルドイドローション
- 10 アドレナリン自己注射薬（11 0.15mg、 12 0.3mg） <例>エピペン
- 13 β 刺激薬貼付薬 <例>ホクナリン
- 14 その他 15（ ）
- 16 調剤していない

15. 災害時、アレルギー疾患関連薬調剤の際に困ったことを選んでください。

- 1 携行薬に処方したい薬剤がなかった
- 2 携行薬に患者に適した剤型・容量がなかった
- 3 携行薬量が限られ十分な日数処方できなかった
- 4 電動のネブライザーが必要な吸入使用できないため、吸入薬剤型を変更した
- 5 その他 6（ ）
- 7 困ったことはなかった

16. チームが携行する薬剤を選定する際に重視したアレルギー疾患を選んでください。（複数回答可）

- 1 気管支喘息発作
- 2 アナフィラキシー（*食物、薬物により多臓器にアレルギー症状をきたすこと）
- 3 即時型アレルギー（アナフィラキシー以外）
- 4 アトピー性皮膚炎の悪化
- 5 鼻炎・結膜炎の悪化
- 6 その他 7（ ）
- 8 アレルギー疾患は考慮していない

17. チームが持参したアレルギー疾患関連内服薬と剤型を選んでください。（複数回答可）

- 1 抗ヒスタミン薬（2 錠剤、 3 粉・シロップ 4 0D 錠） <例>アレグラ
- 5 ロイコトリエン受容体拮抗薬（6 錠剤・カプセル 7 粉 8 0D 錠） <例>オノン
- 9 ステロイド内服薬（10 錠剤、 11 粉 12 シロップ） <例>リンデロン
- 13 テオフィリン製剤（14 錠剤、 15 粉） <例>テオドール
- 16 β 刺激薬（17 錠剤、18 粉、19 シロップ） <例>メプチン
- 20 その他 21（ ）
- 22 持参していない

18. チームが持参したアレルギー疾患関連吸入薬と剤型を選んでください。（複数回答可）

- 1 短時間作用性 β 刺激薬吸入（2 吸入液、3 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、4 MDI 補助器具あり、5 ドライパウダー式吸入器） <例>ベネトリン吸入液

- 6 ステロイド吸入薬（7 吸入液、8 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、9 MDI 補助器具あり、10 ドライパウダー式吸入器）＜例＞パルミコート懸濁液
- 11 ステロイド／長時間作用性β刺激薬配合薬（12 吸入液、13 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、14MDI 補助器具あり、15 ドライパウダー式吸入器）＜例＞アドエアなど
- 16 ステロイド／長時間作用性β刺激薬／長時間作用型抗コリン薬配合薬 ＜例＞テルルジーなど
- 17 吸入補助器具
- 18 その他 19（ ）
- 20 持参していない

19. チームが持参したアレルギー疾患関連外用薬・注射薬を選んでください。（複数回答可）

- 1 抗ヒスタミン薬（点鼻） ＜例＞ザジテン点鼻液
- 2 ステロイド薬（点鼻） ＜例＞ナゾネックス
- 3 血管収縮薬（点鼻） ＜例＞トラマゾリン
- 4 抗ヒスタミン薬（点眼） ＜例＞パタノール点眼液
- 5 ステロイド薬（点眼） ＜例＞フルメトロン点眼液
- 6 ステロイド薬（外用） ＜例＞ロコイド軟膏
- 7 抗ヒスタミン薬（外用） ＜例＞レスタミン
- 8 免疫抑制薬（外用） ＜例＞プロトピック
- 9 保湿剤 ＜例＞ヒルドイドローション
- 10 アドレナリン自己注射薬（11 0.15mg、12 0.3mg）＜例＞エピペン
- 13 β刺激薬貼付薬 ＜例＞ホクナリン
- 14 その他 15（ ）
- 16 持参していない

20. 災害時にアレルギー疾患関連薬剤で持参したほうが良いと思う内服薬を選んでください。（複数選択可）

- 1 抗ヒスタミン薬（2 錠剤、3 粉・シロップ 40D 錠） ＜例＞アレグラ
- 5 ロイコトリエン受容体拮抗薬（6 錠剤・カプセル 7 粉 80D 錠）＜例＞オノン
- 9 ステロイド内服薬（10 錠剤、11 粉 12 シロップ） ＜例＞リンデロン
- 13 テオフィリン製剤（14 錠剤、15 粉） ＜例＞テオドール
- 16 β刺激薬（17 錠剤、18 粉、19 シロップ） ＜例＞メプチン
- 20 その他 21（ ）
- 22 持参しなくてよい

21. 災害時にアレルギー疾患関連薬剤で持参したほうが良いと思う吸入薬を選んでください。（複数選択可）

- 1 短時間作用性β刺激薬吸入（2 吸入液、3 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、4 MDI 補助器具あり、5 ドライパウダー式吸入器）＜例＞ベネトリン吸入液
- 6 ステロイド吸入薬（7 吸入液、8 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、9 MDI 補助器具あり、10 ドライパウダー式吸入器）＜例＞パルミコート懸濁液
- 11 ステロイド／長時間作用性β刺激薬配合薬（12 吸入液、13 加圧噴霧式定量吸入器（MDI）補助具使用無、14 MDI 補助器具あり、15 ドライパウダー式吸入器）＜例＞アドエアなど

- 16 ステロイド／長時間作用性 β 刺激薬／長時間作用型抗コリン薬配合薬 <例>テルルギーなど
- 17 吸入補助器具
- 18 その他 19 ()
- 20 持参しなくてよい

22. 災害時にアレルギー疾患関連薬剤で持参したほうが良いと思う外用薬・注射薬を選んでください。(複数選択可)

- 1 抗ヒスタミン薬 (点鼻) <例>ザジテン点鼻液
- 2 ステロイド薬 (点鼻) <例>ナゾネックス
- 3 血管収縮薬 (点鼻) <例>トラマゾリン
- 4 抗ヒスタミン薬 (点眼) <例>パタノール点眼液
- 5 ステロイド薬 (点眼) <例>フルメトロン点眼液
- 6 ステロイド薬 (外用) <例>ロコイド軟膏
- 7 抗ヒスタミン薬 (外用) <例>レスタミン
- 8 免疫抑制薬 (外用) <例>プロトピック
- 9 保湿剤 <例>ヒルドイドローション
- 10 アドレナリン自己注射薬 (11 0.15mg、 12 0.3mg) <例>エピペン
- 13 β 刺激薬貼付薬 <例>ホクナリン
- 14 その他 15 ()
- 16 持参しなくてよい

23. あなたの地域では災害時用医薬品の備蓄や調達について協定などが行われていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 知らない

24. 災害支援の経験から、アレルギー疾患関連薬剤に関してアレルギー患者指導を行う際に平時、災害時ともに重要と思うことは何ですか？ (複数回答可)

- 1 吸入補助具、スパーサーを用いた加圧噴霧式定量吸入器 (MDI) 吸入方法
- 2 水を使用しない皮膚清潔法、外用薬、スキンケアの方法
- 3 平時から備蓄すべき薬剤や食物の相談
- 4 避難時のお薬手帳携帯
- 5 粉塵など悪化した環境への対処法
- 6 支援団体・患者会の連絡先
- 7 その他 8 ()
- 9 必要ない

25. 大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題把握とその解決についてご提案、ご意見があれば、お書きください。

()

栄養士向けアンケート

【対象者】日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）

<共通>

1. 平時に、災害におけるアレルギー関連疾患やその対応に関する情報を、どのように得たいですか？（複数選択可）

- 1 紙のマニュアル
- 2 PDF やアプリなどの電子マニュアル（オフラインで使えるもの）
- 3 ポータルサイトなどのオンラインマニュアル
- 4 学会の災害時アレルギー相談窓口
- 5 講演・勉強会
- 6 その他 7 ()
- 8 必要なし

2. 災害時に、災害におけるアレルギー関連疾患やその対応に関する情報を、どのように得たいですか？

- 1 紙のマニュアル
- 2 PDF やアプリなどの電子マニュアル（オフラインで使えるもの）
- 3 ポータルサイトなどのオンラインマニュアル
- 4 学会の災害時アレルギー相談窓口
- 5 その他 6 ()
- 7 必要なし

3. 新型コロナウイルスなどの感染症が、災害時のアレルギー疾患患者への支援に影響すると思うことを選んでください。（複数選択可）

- 1 避難所人員定数が減るため、自家用車などで生活する人が増え、アレルギー患者の情報が得られない。
- 2 避難所のスペースを取り検温を実施、発熱などの有症状患者の発見が早く、手指消毒を徹底し感染症にかかりにくい
- 3 災害支援者からの新型コロナ感染を避けるため災害地域外からの人的支援が得にくい
- 4 その他: 5 ()
- 6 影響はない

4. 厚生労働省/日本アレルギー学会が開いている Web 上の情報サイト「アレルギーポータル」をご存じですか？

- 1 アクセスして閲覧したことがある
- 2 名前は聞いたことがあるが、見たことはない
- 3 名前も知らない

5. アレルギー関連学会もしくは自治体が作っている、下記のアレルギーの防災関連のパンフレットや相談窓口のうち、知っているものを選んで下さい。(複数選択可)

- 1 学会作成のパンフレット
- 2 学会による相談窓口
- 3 自治体作成のパンフレット
- 4 自治体の相談窓口
- 5 知っているものはない

6. 前問について、利用したことがあるものを選んで下さい。(複数選択可)

- 1 学会作成のパンフレット
- 2 学会による相談窓口
- 3 自治体作成のパンフレット
- 4 自治体の相談窓口
- 5 利用したものはない

7. 日本小児アレルギー学会では災害支援のため以下のような対策をしています。このなかで、知っているものを選んで下さい。(複数選択可)

- 1 災害時のこどものアレルギーに関する相談窓口
- 2 災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット
- 3 災害派遣医療スタッフ向けのアレルギー児対応マニュアル
- 4 大規模災害対策におけるアレルギー用食品の備蓄に関する提案
- 5 上記のどれも知らない

8. 本研究では、災害時におけるアレルギー患者対応窓口を一本化する目的があります。あなたは、それが必要だと思いますか？

- 1 必要だと思う
- 2 必要だと思わない
- 3 わからない

<栄養士対象>

9. 日頃の職場で行っている食物アレルギー疾患患者への取り組みがありましたらご選択ください。(複数回答)

- 1 食物アレルギー栄養指導、相談
- 2 アレルギー対応献立作成
- 3 アレルギー対応食品紹介
- 4 災害時の対応相談
- 5 災害のための食品のローリングストック方法紹介
- 6 その他 7 (自由記載)
- 8 なし

10. 災害支援（対応）に参加したことはありますか？

- 1 JDA-DAT として参加した
- 2 JDA-DAT 以外で参加した
- 3 いいえ ⇒アンケートは終了です。

※11 以降の質問は、10. で「はい」と答えた方のみお答えください。「いいえ」と答えた方は、アンケート終了です。

11. 災害支援（対応）に参加した場所をお答えください。（ ）には具体的な場所を記載してください。（複数回答可）

- 1 医療（災害派遣医療チーム DMAT 等医療班との帯同）
- 2 医療（被災医療機関）
- 3 行政（都道府県）
- 4 行政（保健所）
- 5 行政（保健センター）
- 6 行政（市町村）
- 7 被災栄養士会災害対策本部
- 8 特殊栄養食品ステーション
- 9 被災県外栄養士会等後方支援（人員調整等）
- 10 その他 11（ ）

12. 災害支援中に食物アレルギー疾患患者の対応をされたことがありますか？

- 1 直接対応したことがある
- 2 間接的に対応したことがある（支援中の隊員からの相談など）
- 3 なし ⇒アンケートは終了です

※13 以降 の質問は、12. で「直接対応したことがある」または「間接的に対応したことがある」と答えた方のみお答えください。「なし」と答えた方は、アンケート終了です。

13. 食物アレルギー疾患のため対応された患者はどのような年代でしたか？（複数回答可）

- 1 乳児（生後 6 か月未満）
- 2 乳児（生後 6 か月から 1 歳未満）
- 3 幼児（1 歳から 6 歳未満）
- 4 小児（6 歳以上 15 歳未満）
- 5 成人（16 歳以上 65 歳未満）
- 6 高齢者（65 歳以上）

14. 対応された患者はどの食品にアレルギーがありましたか？（複数回答可）

- 1 鶏卵 2 牛乳 3 小麦 4 ピーナッツ 5 ナッツ類 6 甲殻類（エビ・カニなど）
- 7 そば 8 魚類（アニサキス含む） 9 大豆（豆乳・豆腐・もやし） 10 果物

□11 その他の食物 12（食品名 ）

15. 食物アレルギー疾患患者の対応を、誰と相談・協力して行いましたか？（複数回答可）（ ）には具体的なチームや職種を記載してください。

- 1 自分一人
- 2 JDA-DAT、栄養士会
- 3 他の栄養士
- 4 医師
- 5 他の災害支援チーム 6（自由記載 ）
- 7 患者の養育者、家族
- 8 その他 9（自由記載 ）

16. 食物アレルギー疾患患者の対応を、誰と相談・協力したかったですか？（複数回答可）（ ）には具体的なチームや職種を記載してください。

- 1 自分一人で問題なかった
- 2 JDA-DAT、栄養士会
- 3 他の栄養士
- 4 医師
- 5 他の災害支援チーム 6（自由記載 ）
- 7 患者の養育者、家族
- 8 その他 9（自由記載 ）

17. 災害支援中に食物アレルギー疾患で必要であった物品はなんですか？（複数回答可）

- 1 アレルギー対応ミルク
- 2 アレルギー対応離乳食
- 3 アレルギー対応食品
- 4 アレルギー対応介護食
- 5 その他 6（自由記載 ）

18. その物品（食品）はどこから提供されましたか？（複数回答可）

- 1 被災自治体
- 2 栄養士会
- 3 特殊栄養食品ステーション
- 4 各種学会
- 5 自身の所属先
- 6 業者
- 7 その他（自由記載 ）

19. 食物アレルギー疾患患者の対応をする際、有用であった情報源はどのような形態でしたか。選んでください。

- 1 紙（印刷されたパンフレットや冊子）
- 2 PDF（携帯、タブレット、パソコンで見られる電子パンフレット）
- 3 特設の web サイト（インターネットにアクセスして閲覧できるホームページ）
- 4 その他 5（自由記載 ）
- 6 特になし

20. 平時において、アレルギー疾患患者が災害に対応するためにどのような情報、人材が必要と感じましたか？（複数回答可）

- 1 食品ローリングストック方法
- 2 アレルギー対応災害食品紹介
- 3 地域のアレルギー対応災害食品の備蓄情報
- 4 学会のアレルギー相談窓口連絡先
- 5 アレルギー患者が利用できる地域の避難所
- 6 地域の食物アレルギー・災害に詳しい栄養士
- 7 地域の食物アレルギー・災害に詳しい医師
- 8 その他 9（自由記載 ）

21. 災害時において、アレルギー疾患患者が災害に対応するためにどのような情報、人材が必要と感じましたか？（複数回答可）

- 1 日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）
- 2 災害医療コーディネーター（小児周産期リエゾン）
- 3 地域のアレルギー対応災害食品の備蓄情報
- 4 学会のアレルギー相談窓口連絡先
- 5 アレルギー患者が利用できる地域の避難所
- 6 地域の食物アレルギー・災害に詳しい栄養士
- 7 地域の食物アレルギー・災害に詳しい医師
- 8 その他 9（自由記載 ）

22. 栄養士が対応した食物アレルギー患者の詳細について 2 次調査を予定しています。ご協力いただける方は下記に所属、お名前、連絡先をお書きください。こちらからご連絡させていただきます。

- 所属 1（ ）
- 名前 2（ ）
- 連絡先メールアドレス 3（ ）
- 4 協力希望なし